

がん薬薬連携に関する 研修会

実施後報告

ご参加頂きありがとうございました。

3月25日にオンラインにて『令和6年度第2回がん薬薬連携に関する研修会』を開催し、16名の方にご参加いただきました。

今回は当院の看護師から「がん患者のスキンケア」、薬剤師より「免疫チェックポイント阻害剤で起こる免疫関連有害事象（irAE）」について講演を行いました。

スキンケアについては、皮膚の構造など基礎的なところから、スキンケアの目標、保湿剤の塗り方などを学ぶことができました。実際の症例も提示いただき、皮膚の症状によってどのような悩みや生活上での苦痛などがあるか理解することができました。

免疫関連有害事象（irAE）では、有害事象が多岐にわたり検査値などの情報だけでなく、日ごろからの患者さんからの訴えなどから早期発見・早期対応が必要となってくることが理解できました。今後はさらに連携をとっていかねばなりません。

今後がん患者への質の高い治療提供に向けて研修会を開催していきますので、引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。

免疫関連有害事象 (irAEs)

免疫チェックポイント阻害剤は免疫系を過剰に活性化させるため、自己免疫疾患に似た副作用が発生することがある

臓器・組織	症状	発生頻度
皮膚	発疹、かゆみ、乾燥、口炎	82%~91%
消化器	下痢、大腸炎、腹痛	82%~93%
肝臓	肝臓炎、肝臓障害	85%~90%
内分泌系	甲状腺機能低下症、糖尿病	85%~90%
肺	肺炎、呼吸困難	85%~90%
神経系	末梢神経障害、筋力低下	85%~90%
腎臓	腎臓炎、血中クレアチニンの上昇	85%~90%
心臓	心筋炎、不整脈	85%~90%

Department of Pharmacy, Japanese Red Cross Morioka Hospital

保湿剤の塗り方

背中の場合

1. 手をよく洗って清潔にし、保湿剤を手に取り、数カ所に置きます。

2. 手のひらで優しく丁寧に、背中全体に塗り広げます。

3. 塗った部分が光って見える。ティッシュペーパーが軽く程度が使用量の目安です。

自分の背中に塗る方法

市販のサポート用具やガーゼを巻いた孫の手を使うとよいでしょう。

手の甲をご覧ください
皮膚の流れがあります

塗るタイミングは入浴後
10分以内をめやすに

引用：
https://www.maruho.co.jp/medical/pdf/academic/shidouusen/skin_kare_to_hositsuzainonurikata.pdf